

義務教育課長メッセージ

新しいカリキュラムについて

- ◆家にいたらダラダラしてしまうが、学校に来たらやる気が出る。(小学生)
- ◆2週間の分散登校で、学校生活に慣れているので大丈夫。(中学生)
- ◆今まで当たり前だと思っていたことがとても特別で、うれしいことだと感じた。(中学生)
- ◆学習については不安があるが、学校も様々な対応を考えていただいている様子が分かる。親として、協力していきたい。(保護者)
- ◆子供から聞いたり、学校のHPを見たりして、学校が様々な感染症対策をしてきていることを知り、安心した。(保護者)
- ◆分散登校の期間、登校を重ねるごとに子供が元気になった。(保護者)
- ◆「ソーシャル・ディスタンス」が心の距離につながらないように配慮したい。(教員)
- ◆地域の方からは手作りマスク、学校歯科医からはフェースシールドなどの提供を受け、とてもありがたい。期待に応えていきたい。(教員)
- ◆生徒の心に寄り添い、安心して学校生活を送れるよう全力を尽くしたい。(教員)

昨日、県内の小中学校が完全再開を迎えるに当たって寄せられた声です。

臨時休業や分散登校が長かった地域では、(感染症対策下ではあるけれど、)ようやく元の学校に戻ってきたと、多くの方々が感慨に浸ったこととされます。

当たり前と感じていた、クラス全員を前にしての授業。それがやっと始められる。子供たちが日々成長するよう、力が付く授業、安心して生活できる学級経営をやっていこう。先生方は、思いを新たにされたことでしょう。

反面、まだまだ先行きが不透明であるがゆえ、例えば、今後のカリキュラムをどうするかについて悩んでいる方も多いのではと推測します。

そこで、令和2年度版の特別なカリキュラムを作成・改訂するうえでのポイントを二つ紹介します。

◆ 70（75）分授業の捉え方

6時間目に、小学校で70分（中学校であれば75分）の授業を設定するとします。その指導時間数を2コマとカウントする場合、同じ教科等を70（75）分続けると捉えます。

実技が伴う学習や調べ学習などを実施する場合、準備（①）や片付け（②）に時間を要します。また、日数を置いて同じ内容に取り組ませる時には、授業始めに、学習を進めるうえでの注意点を確認する時間（③）が必要です。70（75）分授業であれば、連続しない場合の2時間目に必要となる（①）、（②）、（③）の時間を省略することができるため、「1コマ+25分」を2コマとカウントする訳です。

ですから、小学校で、40分（A）+30分（B）で2教科を実施した場合、（A）を1コマと捉えることはできたとしても、（B）を1コマとカウントするのは妥当ではありません。（B）は、0.75コマと考えるのが適切でしょう。その日のうちに2コマを確保したいのであれば、朝の時間等に教科（B）に関する10分（0.25コマ）の学習時間を生み出し、それと合わせて1コマとする方法が考えられます。

◆ 教科等の内容の優先順位

令和2年度については、学習内容を年度内に終わらせることができなければ、最終学年を除いて、次年度以降に繰り越せる（文科省5月15日付け通知）ことになっています。令和2年度の内容を令和3年度、可能な学年であれば、令和4年度にかけて指導するカリキュラムを組んでよい訳です。

5月中に完全再開を迎えられたことで、夏季休業中の授業や1日6.5時間、7時間等の授業設定により、今後、再度の長期臨時休業や度重なる非常変災等がなければ、前年度の積み残しを含めて、今年度の内容はほぼ指導を完了するのではないかと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症の第二波、第三波の可能性が否定できない今、そうなった時への備えも必要です。カリキュラムを考えるうえで、今のうちにやっておくべきことは、各教科等で、次年度以降に回しても大きな問題が生じない内容を洗い出しておくことです。そのうえで、通常であれば、一学期に位置付けていた内容を三学期に後回しするなどの対応を取ります。

また、次年度に持ち越さない方がよい内容が大半を占める教科、例えば、算数・数学、理科などは、できるだけ優先的に授業時間を確保する方策も必要かもしれません。中学校であれば、数学の授業を多めに設定する期間は、他教科の担当が数学担当者のクラスの道徳を受け持つなどの工夫も考えられます。

いずれにしても、様々な教育活動に関して、これが正解だ、とはなかなか言いにくい状況にある中、カリキュラム編成についても、各地域、各学校の実態に応じた柔軟な対応が求められます。

子供の姿をよく捉えた、内容重視のカリキュラムが編成・改訂されることを期待します。